

視察（研修）報告書

令和8年2月4日

府中市議会議員 様
創生会会長 様

会派名又は 創生会
議員名 真田 光夫

日	時	令和8年2月2日（月） から 令和8年2月3日（火）
研 修 先		全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研 修 コ ー ス		市町村議会議員研修〔2日間コース〕 ～人口減少における地域の課題～
参 加 者		真田 光夫 参加人数：175名（北海道から沖縄県）
研 修 目 的		少子高齢化の進行や人口流出に伴い、地域の経済力や社会的活力の低下、労働力不足や担い手不足など、多くの深刻な問題の顕著化が懸念されています。本研修では、人口減少社会における地域の課題について最新の動きを取り上げ、制度や問題について理解を深めながら、それぞれの自治体での課題解決に向けた方策について考えます。
研 修 内 容		<ol style="list-style-type: none">1. 人口減少時代に対応する地方創生の考え方 人口減少は避けられない現実であり、地方創生とは人口増加を目的とするのではなく、「人口減少に適応した地域づくり」を行うことであると示された。行政単独ではなく、企業・大学・住民が連携し、地域課題を新たな価値や仕事へ転換する「共創」が重要である。2. 地域課題をビジネスで解決する実践事例 空き家活用、買い物支援、地域交通、子どもの居場所づくりなど、地域の困りごとを企業の強みと結びつけて事業化するソーシャルビジネスの事例が紹介された。ボランティアではなく、収益を生む仕組みとして継続可能な形で課題解決を行う点が特徴である。3. 人材育成を軸とした地方創生の仕組み 熊本大学と自治体が連携した「未来創造塾」などにより、地域で活躍する人材（ローカルイノベーター）を育成している。若者や事業者が地域課題をテーマに学び、ビジネスプランとして発表・実践につなげることで、地域内に挑戦する人材の循環を生み出している。
所 感		<ol style="list-style-type: none">1. 地方創生は「支援」ではなく「仕事づくり」であると実感した 地域課題を行政施策や補助金だけで解決するのではなく、企業活動やビジネスとして成立させることで、持続可能な地域づくりにつながることを学んだ。「課題＝コスト」ではなく「課題＝資源」と捉える発想への転換が重要であると感じた。2. 若者に“カッコいい大人”を見せることの重要性を再認識した 地域で挑戦する大人の姿を見せることで、若者が地域課題に関心を持ち、将来の進路や生き方を考えるきっかけになることが分かった。地方創生は経済対策であると同時に、教育・人づくり政策でもあると強く感じた。3. 行政の役割は「実行」より「つなぐこと」へ変化していると感じた 行政が事業主体になるのではなく、企業・大学・地域のプレイヤーをつなぎ、場をつくり、挑戦を後押しする役割が求められている。今後は、地域に眠る人材やアイデアを発掘し、共創を促す仕組みづくりが重要になると感じた。

① 地方創生とはいかなるものか

人口減少時代の地域づくりとは何か

地方創生とは、「人口減少を前提に、地域が持続して生き残る仕組みをつくること」である。

具体的には、「人口を無理に増やすことだけを目的」とせず、「人口減少によって起こる」（産業衰退・交通縮小・買い物難民・空き家増加・地域コミュニティ崩壊など）の課題に、ビジネス・共創・人材育成で対応する地域づくりである。

特徴は次の3点：

1. 行政だけでなく、企業・大学・市民が連携（共創）すること
2. 地域課題を「コスト」ではなく「ビジネスチャンス」と捉えること
3. 人口減少に適応した“小さくても機能する地域”をつくること（小さな拠点）

つまり、「衰退を止める」よりも「減っても回る社会をつくる」ことが地方創生である。

② 参考になった・取り入れたい・考え方が変化した点

特に参考になった点は次の3つ。

① 地域課題 × 企業課題 = ビジネス (CSV)

- ・ボランティアや補助金頼みではなく、
- ・企業の強みを活かして地域課題を解決するという考え方。
(例：空き家×不動産業、買い物弱者×交通会社)
「支援」ではなく「事業」で解決する発想に変わった。

② 若者の意識は「地域課題=かっこいい」に変わっている

- ・地方創生に関わる大人をクールでかっこいい存在として見せることが重要
- ・高校生・大学生が、「プレイヤー」か「サポーター」として関われる設計が重要
「仕事づくり」と「人づくり」はセットだと再認識した。

③ 行政がやるのは“事業”ではなく“人づくりと場づくり”

- ・プレイヤーを育てる
- ・共創の場をつくる
- ・キーマンを見つけ、つなぐ
「行政=サービス提供」から
「行政=共創のプロデューサー」へ意識が変化した。

③ 皆さんは、どのような関わりができそうか

私たちができる関わり方は、主に次の3つに分かれる。

① プレイヤー（実行者）として

- ・空き家活用
- ・移動サービス
- ・子どもの居場所
- ・高齢者支援など、
自分の仕事や専門性を使って地域課題を解決する事業を行う

② サポーター（支援者）として

- ・若者や起業家の相談役
- ・広報・企画・資金調達支援
- ・ネットワークづくり
「自分は事業者でなくても関われる」

③ つなぐ人（コーディネーター）として

- ・行政 × 企業
- ・学校 × 地域
- ・企業 × 住民をつなぐ役割。

「誰かが始めた挑戦を孤立させない役割」が重要。

地元の商工会議所青年部やJC、まちなか繁盛隊にも声をかけて、地方創生がビジネスになることを伝えます

まとめ

地方創生とは、人口減少という現実から逃げず、地域課題を「価値」と「仕事」に変え、人が育つ仕組みをつくることである。

そして、私たち一人ひとは、

- ・プレイヤーにも
- ・サポーターにも
- ・つなぐ人にもなれる。

「何者かになる」より、「誰かの挑戦を支える存在になる」ことも、立派な地方創生であることを学びました。